

フラグシップ・ニュース 拝啓社長殿

トップのための経営財務情報

第469号 この資料は全部お読みいただいて140秒です。

今回のテーマ： 中小企業にはキャッシュ・フローの活性化－黒字倒産を予防－

最近の企業倒産データ

帝国データバンクの集計によると、2009年11月の倒産件数は1,000件で前月比6.5%の減少と2008年後半から続いた倒産件数の増加傾向にはひとまず歯止めがかかったとみられます。しかし、このうち中小企業の倒産件数は997件とほとんどを占めており、中小・零細企業を取り巻く経営環境は依然厳しいものがあります。

黒字倒産

企業が倒産する典型的なパターンは、何年間か赤字が続き、資金繰りに窮して債務の返済が不能になるというケースです。最近では直前の決算期では利益を計上しているにもかかわらず経営破綻してしまう、いわゆる黒字倒産の事例も見られます。大手企業でも、東証1部上場の日本綜合地所は2004年3月期から5期連続で黒字を計上し、直前の2008年3月期は過去最高益でしたが、その後の市況の低迷により在庫が積み上がって資金繰りを逼迫させ、2009年2月に会社更生手続の開始を申し立てることとなりました。「勘定合って銭足らず」と言われるように、売上高や利益が増加していたとしても、十分な資金が確保できない状況に陥ると企業は倒産することもあります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」の重要性－倒産のシグナル

上場企業では財務諸表の1つとしてキャッシュ・フロー計算書の開示が義務付けられています。ここには営業・投資・財務の3種類の活動別の資金の動きが表示されます。中でも経常的な営業活動の結果どの程度の資金を獲得したかを示す「営業活動によるキャッシュ・フロー」がプラスか否かが、事業規模の大小を問わず企業の健全性を見る上での重要なポイントの1つとなります。「営業活動によるキャッシュ・フロー」がマイナスの状態が続くと、借入金返済のための資金を賄うことができなくなり、倒産リスクが高くなります。日本綜合地所の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は2005年3月期以降4期連続のマイナスが続いて、倒産の危険信号がすでに表れていました。

キャッシュ・フローの改善策

利益の減少以外で「営業活動によるキャッシュ・フロー」がマイナスとなる主な要因は売掛金と棚卸資産が必要以上に増加することです。黒字倒産のほとんどのケースもこれらに起因しています。したがって、これがマイナスの場合にはその原因を分析し、改善が必要であれば、売掛債権の回収状況の検討、滞留債権の処理、生産・仕入の縮減、過剰在庫の処分等による在庫の圧縮、入金・支払サイトの見直し(入金は短く、支払は長く)などの対応策を一気に講じることが不可欠です。

お見逃しなく！

利益は採用する会計処理方法によって変わりますが、キャッシュ・フローは客観的なキャッシュという尺度で測定されるため、企業の真の実力、真の経営状態を反映すると言われていています。厳しい経営環境の中で、根本的な企業の存続を前提とした場合には、売上高や利益を拡大させることだけに主眼を置くのではなく、キャッシュ・フローを重視した経営が重要です。

キャッシュ・フロー計算書の作成は融資を受ける際には特に重要な役割を果たしますが、同時に、普段気がつかない自社の強みを客観的にとらえ、中・長期的視点で企業体質を強化させる布石と対策を立てておくことが必要です。